園のおたより

第　２　号

令和６年５月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

新しい居場所

園長　関　由起子

今年度が始まってから約 2 ヶ月立ちました。新しく幼稚園に入園したこどもたちも、だいぶ落ち着いてきました。「ママがいい」、「パパがいい」と泣いていたこどもたちも、涙の時間がだんだん少なくなり、笑顔が増えてきました。門から私に抱っこされたり手を繋がれたりして 1 組まで来ていたAくんは、しばらくすると、「抱っこはダメ」、「手は繋がない」といい、自ら 1 組までしっかり歩くようになりました。だっこも手つなぎもできなくなった私は少し悲しく、「だっこもしない、手もつながないから、一緒に歩いてもいい？」と聞くと、しぶしぶ「いいよ」と言ってくれました。たくましく成長しているなあ、と感じた瞬間でした。私の娘は 0 歳から保育園に通っていましたが、2，3 歳頃、保育園に行かないと 1， 2 ヶ月ほど大泣きしていました。自分を求めてくる娘を無理やり保育士さんに預けて立ち去る私を、「なんてひどい母親なんだろう」と思い、涙する日も多々ありました。けれどお迎え時には逆に「帰らない」と逃げ回られました。「保育園は帰りたくないほど楽しいのね」と安心しつつも、1 時間近くも娘の名前を呼びながら「帰ろうよ」と追いかけ続ける私の姿は、いつの間にか保育園の名物になっていました。

先日、大学の仕事で附属小学校を訪ねました。幼稚園を卒園し、新入生となった 30 名の 1 年生に少しだけ会う時間があったのですが、みんな私の顔を見て、なぜ園長先生がいるんだろうとびっくりし、けれど笑顔で答えてくれて嬉しくなりました。みんなが小学校での生活を楽しめているか心配していましたので、少しホッとしました。Bくんは私の顔をみると、「あっ、園長先生。幼稚園かあ。懐かしいなあ」とボソっと言いました。3 歳児クラスのこどもたちのように大泣きはしないけれど、もしかしたらたくさんの苦労があるのかもしれないと思い、笑顔の裏にある強さも感じました。

新しい環境に自分の居場所を見つけることは、大人にとっても簡単なことではありません。けれども、この新しい居場所づくりは自分の成長につながることも多いと思います。がんばれ、新入園児、新入生！

朝のひととき

副園長　小谷　宜路

毎朝、門のところで、幼稚園にやってきたこどもたちを出迎えていると、いろいろな姿に出会うことができます。門からそれぞれのクラスの部屋まで、少し距離がありますが、一気に勢いよく走り込んでいく人もいれば、時々うしろを振り向きながらゆっくり進んでいく人もいます。園まで送ってきてくれたおうちの人が気になる人、一緒に遊びたい友達が園に到着しているかどうか気になる人、それぞれ確かめながらの歩みです。ゆっくりゆっくりした歩みが、何かの拍子に、急に駆け足になる人もいます。

門を入ってすぐ近くにしゃがみこんで、列をなすアリや、もそもそ動くダンゴムシの発見を始める人、後から登園してその発見に一緒に加わる人。門の近くにある掲揚ポール用のフタを開けると、そこに様々な虫が住んでいることは、たくさんの人たちが知っています。他にも、タンポポの花を摘んだり綿毛を優しく吹いたりする人、できるだけ長い茎についたままのシロツメクサを探している人、ちょうちょを見つけてクラスの部屋とは全く違う方向へ追っていく人、登園までの道のりで見つけた素敵な葉っぱや花を「どうぞ」と贈ってくれる人、「お昼過ぎたころから雨が降るかもしれないよ」と今日の天気予報を教えてくれる人…、自然の生き物や天気、季節などを感じ取っていくいろいろな姿にも出会います。

同じ人であっても、日によって、朝の様子が違うこともよくあります。なんとなく調子が出ない日もあります。大人でも“今日はちょといつもと同じ調子で一日を始められない…”ということがありますから、こどもたちにそんな朝があるのも同じです。幼稚園での今日が始まり、お昼ご飯になるまで、たっぷり時間はあります。先生とたわいもない話をしてみたり、どうにかたどり着いた部屋の前のテラスに腰かけてぼんやりしてみたり…、すぐに遊び出さなくても問題ありません。大丈夫です。周囲がそのことを一緒に感じてあげようとするだけで、少しずつ自分の調子に向き合っていくことができるように思います。

幼稚園には、園外からいろいろな方が来園することがありますが、こどもたちの過ごすゆったりとした雰囲気の心地よさを、来園の感想としてお話されることがよくあります。毎日、こどもたちと一緒に生活しているとあまり意識する点ではありませんが、改めて大切にしていきたいと感じます。

友達と遊ぶことが楽しみで、とにかく大急ぎで支度を済ませて過ごす人も、門をまたいで園に入る一歩目に自分の気持ちも乗せて、少しずつ調子を整えながら過ごす人も、その人その人、その日その日の大切な朝のひととき です。一人一人の朝の始まりの感じ方を大切に受け止めながら、こどもたちの登園を明日も待っています。

クラスだより

１くみ

「初めての出会い」

天気が良い日には身支度を終えると喜んで園庭に出かけたり、雨の日には「今日は雨だからお外で遊べないね」と残念そうに話してくれたりと園庭で遊ぶことを楽しみにする人がたくさんいます。5 月に入りみんなで素足になって園庭で遊んでみることにしました。前日の降園時に“明日は素足になって園庭で遊ぶこと”を伝えると、目をきらきらと輝かせながら「ほんとに！」と初めてのことにわくわくした気持ちになる人や「靴は履かなくていいの？」と驚いた様子の人もいました。

晴れ間が見えた日に、いよいよ素足になって園庭へ出発です。まずは保育室の目の前にある砂場へ。靴を履いている時には気付かなかった感触に「ふわふわしてる」「冷たい」「あったかい」など、足から感じたことを嬉しそうに教えてくれました。それまでは、汚れることや手で砂を触ることに抵抗がある様子の人たちも、砂の山を登ってみたり、足を埋めてみたり、自分から砂に触れて、全身で感触を味わっているようでした。普段、自分たちの足を守ってくれている靴がないだけで、こどもたちは身体も心もより開放的な気持ちになることができるのだと感じました。

足を砂に埋めて「温泉」のイメージで遊ぶ人がいたので、次の日には砂場に大きな穴を掘っておきました。A さんが砂場の穴に水を繰り返し入れていると、段々と穴の中に水が溜まり始めました。それに気づいた B さんが恐る恐る穴の中に入ってみると「冷たくて気持ちいい」と嬉しそうに話し、それを聞いて「ぼくも入りたい！」と他の人も集まってきました。すると穴だったものはあっという間に“泥水温泉”に変身です。温泉に何度も水を入れていると「白いのがある」と不思議な物があることに気が付きました。白い泡を手に乗せてアイスクリームを作ったり、たくさん泡ができると“泥水温泉”が“アイスクリーム風呂”になったり、新たな発見から遊びの世界が広がっていました。

初めてのことに出会った時には、わくわくした気持ちもあれば、不安な気持ちもあると思います。どちらの気持ちも大切にしながら、いろいろなものや遊びとの出会いができるよう支えていきたいと思います

２くみ

わたしの「遊ぶ」

　アサガオの種を蒔きました。明日に芽が出るかもしれないと、みんなでワクワクしました。翌日の朝は、芽は出ていませんでした。すると、土の中で種は、「たまごやきを作っていると思うよ」「遊んでるから、まだ出たくないんだよ」「ブロッコリーを食べているんだよ」と話してくれました。なるほど、種もおいしい物を食べていたり、遊んだりして、土の中を楽しでいるのですね。出てくることを期待しながら、土の中の種に思いを巡らせる人たちに、新たな楽しさを教えてもらいました。そして、「あしたのあしたに出てくるよ」と言った人がいましたが、本当にあしたのあしたに発芽したのです。嬉しくて、お水をあげたり、葉の様子を見たりして、２組さんの毎日の楽しみになりました。

　さて、今の２組の「遊ぶ」についてお伝えします。興味の合う友達と一緒に過ごすことが楽しくなってきたように思います。もちろん、一人もくもくとやりたいことに入り込む姿もあります。保育室では、お姫さまや、キャラクターになってショーをしたり、アイス屋ごっこやままごとで、やりとりをしたり、空き箱で新幹線や車を作って走らせたりしています。園庭では、ダンゴムシや、その場で出合う虫の様子を興味深く見ています。また、道具を使って場を作り、バーベキューをする時には、草花や石や枝を、お肉やお野菜に見立てて焼いています。砂場で掘ったり、水を流したりすることも楽しくて、おひさまで温まった砂や、水のひんやりとした心地よさを味わう人もいます。

　同じようなイメージで遊ぶ中でも、自分と相手の思いの違いを感じることも多くなってきました。そう感じて、怒ることもあれば、泣くこともあるし、スッと離れる人もあれば、相手に分かってもらおうと向かっていく人もあります。活発に遊ぶ姿、静かに遊ぶ姿、どちらも大切な遊びです。誰かと遊んでも、一人で遊んでも、いつ始めても、いつ終わってもよいし、必ずしも楽しむことばかりが遊びではない気もしています。ひたすらに考えることが好きな人も、空想の中で過ごすことが好きな人もいますね。どのような「遊ぶ」姿も、それぞれのしあわせにつながっていると思います。これからも、一人一人の「遊ぶ」を、丁寧に見せていただこうと思っています。

３くみ

「なかよしグループをきっかけに」

３組になって一つの楽しみになっているのが、「なかよしグループ」をはじめとした他の学年の人との関わりです。進級してしばらくした頃に新しいなかよしグループの友達について伝えると、とても興味深そうに聞いていました。次の日なかよしグループの表を保育室に掲示しておくと、関心をもって見る姿がありました。どんな人なのか楽しみに繰り返し名前を口にしたり、２組の人については知っている友達がいることに気づいたりして、一緒に過ごすことを楽しみにしていました。

４月のこども会では、初めてなかよしグループが顔を合わせて一緒に過ごすことができました。それから、「なかよしグループの人のためになにかできないかな？」とクラスみんなで考える時間をもつようにしました。いろいろなアイデアが出てきて、「これはできるかな？」と一つ一つのアイデアについてじっくり考えました。そうして、切り紙のペンダントのプレゼントと、「たけのこ体操」を５月のこども会に向けて準備しました。プレゼント作りでは、同じなかよしグループの人のことを思い浮かべながら、「〇〇ちゃんはこの色がすきかな？」とリボンを選んだり、自分たち自身が普段楽しんでいる体操を見てもらうことを楽しみにしたりしました。会の当日はプレゼントをしたり、一緒に体操をしたりして、準備してきたことが実現したことを喜ぶ姿がありました。ペンダントを嬉しそうに付けている１組、２組の友達、それを見る３組もとても嬉しそうでした。

なかよしグループをきっかけに、１，２組の人との関わりは続いています。１組の着替えを気にして手伝いに行ったり、２組の人と「たけのこ体操」を踊ったりして、継続的な関わりが親しみにつながっているようです。同じ園にいる人同士、つながりを感じながら過ごしていければと思います。